

科目名		作業関連疾患予防学演習	
科目責任者		大神 明 (作業関連疾患予防学 教授)	
開講時期:	2年次	単位数:	4 単位
		時間数:	90分× 30 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>職域における産業保健の課題として、特に先進諸国においては従来の職業性疾病に代わり重要な対策対象となっている作業関連疾患の範囲、就業との関連、発症および進展予防に資する対策について理解し、現場での対策、教育の方法を習得する。受講者は個々の範疇に属する疾患については基礎知識を有することを前提して、事業においては対策実施の企業活動上の意義、効果についてのエビデンスを提示し、適宜ケースメソッド教授法による討論を組み入れ、また演習ではグループワークによる課題への対策案の作成を通じて、実践力を身につけることを図る。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 作業関連疾患予防学の概念とこれまでの展開について論じることができる。 2) 作業関連疾患予防学の現代における発展と課題について論じることができる。 3) 作業関連疾患の背景における諸問題を論じることができる。 4) 作業関連疾患の背景における諸問題を分析することができる。 5) 作業関連疾患を予防するために必要な疫学的・統計学的調査方法を論じることができる。 6) 作業関連疾患の各疾患において基礎理論の応用を論じることができる。 7) 作業関連疾患予防の概念を各疾患予防に応用することができる。 8) 疫学の考え方・調査方法を作業関連疾患各論に応用することができる。 9) 産業保健医療情報の特徴について論じることができる。 10) 国内外の作業関連疾患予防研究の特徴について論じることができる。 11) 作業関連疾患予防学の概念を基礎とした就業措置についてを論じることができる。 12) 企業等のフィールド調査研究の作業関連疾患予防学的要点について論じることができる。 13) 日本の作業関連疾患予防政策・制度について論じることができる。 14) 作業関連疾患予防政策・制度の国際比較について論じることができる。 15) 企業の社会的責任としての作業関連疾患予防について論じることができる。 			
● 評価方法	プレゼンテーション40%、討論参加30%、レポート30%等で総合評価する。		
● 参考文献	演習の中で必要に応じ紹介する。		

● 授業内容

回	内容	担当教員
1・4・7・10・13・ 16・19・22・25・28	選択した演習テーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な演習を行う。	大神
2・5・8・11・14・ 17・20・23・26・29	研究所内疫学系抄読会に月1回以上参加し、作業関連疾患に関する最新の論文を読んで紹介するとともに、問題点について多角的に議論する。	大神
3・6・9・12・15・ 18・21・24・27・30	研究所内カンファレンス(オリオンゼミ)に参加し、大学院生自ら発表と議論を行うことにより、プレゼンテーション能力の研鑽を図るとともに、議論力論理構成力の向上を図る。	大神